

学校教育目標	夢と希望と輝きをもつ 児童の育成	〔ミッション〕 ふるさと原を誇りに思い、生き生きと輝いて21世紀の社会に貢献できるよう、自分で考え自分で行動する子どもを育てる。
		〔ビジョン〕 ・自由と規律のある学校 ・風通しのよい職場 ・地域を大事にする学校
経営目標に向かうストーリー	☆七尾中校区、本校の研究テーマに共通している「自分の考えを持ち、説明する力の育成」に基づき、表現力の向上を目指した授業づくりを行う。 ☆行事等を通して地域の方々に親しみ、日頃のあいさつや会話等を通して感謝の気持ちを持つことにより、地域貢献への意識を涵養する。	

評価計画				昨年度末	目標値	第2回中間	第3回最終	達成度	評価
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標						
①【学習指導】 主体的、意欲的に学ぶ児童を育成し、確かな学力を身につける	◎原小学びのスタイルを確立し、教師の授業力を向上させる	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科を中心に筋道を立てて考え、表現する力を高めるための課題発見解決学習を行う ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善を進める 	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の育成【市共通項目】市目標値 85% <small>※全国学力・学習状況調査児童質問紙の肯定的評価からの算出から取る</small> 決定 ・「理由をつけて考えを表現することができている」児童評価【校区共通項目より】 ・「ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善に取り組んでいる」教師評価	100%	85%	74%			
(修正)				75%	85%	74%			
②【生徒指導】 自分を大切に、友達を大切に、共に頑張ろうとする心と根気強く取り組む力を育成する	◎児童の自己有用感を高める 【校区共通項目】 より一層健康意識を高め、望ましい生活習慣の定着を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・生活ふり返り週間の取組を継続し、日々の生活習慣について、目的意識をもたせ、個に応じた具体的な方法を指導する。 ・自他の良さを互いに認め合える活動の場づくりと評価の工夫を行う （「かがやきの木」の全校への紹介・縦割り班掃除等の取組） 	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活（早寝・早起き・テレビゲームの時間 1日2時間より少なく）についての児童の肯定的評価（生活ふりかえりカード①②③） ③は【校区共通項目】 ・「自分から進んであいさつをする」児童の肯定的評価（生活ふりかえりカード④） ・「ふわふわ言葉をつかう」（生活ふりかえりカード⑤） 「人のよさを見つけたり伝えたりする」児童の肯定的評価（生活ふりかえりカード⑥） 	75%	80%	69%			
(修正)				94%	90%	91%			
③【開かれた学校】 地域・保護者との連携を深め、信頼される学校づくりを進める	◎学校運営協議会内での連携を核として、児童と地域とのつながりが深まる教育活動を推進する ◎学校からの積極的な情報発信を行い、児童に関わる課題を保護者と共有し課題解決に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校の協働により、児童の資質・能力・態度を育成する ・児童の学習面や生徒指導上の課題に対して、迅速に対応する ・業務改善を行い児童と関わる時間や教材研究の時間を確保する 	「地域の人材とのつながりを広げたり、深めたりできた」教師評価 「自分は地域（原）が好きであり地域に役立ちたいと思っている」児童評価 ・「学校は我が子の相談に丁寧に対応してくれる」保護者評価 ・「児童の課題に対し迅速に対応し、教職員間で連携して取り組んだ」教師評価 ・「仕事に意義とやりがいを感じ主体的に児童と関わったり教材研究に取り組んだりした」教師評価	89%	90%	100%			
学校における働き方改革を推進し働きやすい職場を目指す	◎学校全体で業務改善を推進し教職員が主体的に課題を解決する組織風土を醸成する。			96%	98%	94%			
(修正)				89%	95%	100%			
				80%	100%				
(修正)			「自分は地域（原）が好きであり地域に役立ちたいと思っている」児童評価も入れる。						

結果と課題の分析・改善方法等

<p>①</p> <ul style="list-style-type: none">・児童アンケートの「困ったことや難しいことの解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる」の肯定的評価が74%であり、目標値を下回っている。原小学びのスタイルにもある自力解決の時間を授業の中で十分に確保する。そのうえで児童が協働的に学び合う授業を展開することに努める。・児童アンケートの「自分は理由をつけて話したり書いたりしている」の肯定的評価が74%であり、目標値を下回っている。授業の中で指導者が理由を求める場面を増やす。・指導者アンケートの「ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善に取り組んでいる」の肯定的評価は100%。引き続き新しいアイデアを取り入れながら授業改善に取り組む。	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none">・早寝の課題が大きい。全学年の通信で早寝に対する啓発を行うなど家庭への働きかけを継続する。今後も生活リズムの崩れやすい時期に、「生活振り返り」の取組を行う。・挨拶については、「自分から進んで挨拶をする」ことについてどのような姿が良いのかを示すなどの具体的な指導を行ったので、児童の自分に対する評価は、厳しくなっていると想像され、1回目より2回目の方が下がっている。しかし、シール作戦の取組の成果は見られた。数値では表せないが、地域の方に対する挨拶は改善されている。・11月の「チャレンジアウトメディア」の事前指導として、各担任からのメッセージ動画を視聴させ、啓発を行う。・ふわふわ言葉が自然に出るようになっている。声かけをして継続させる。また、「かがやきの木」を運営委員会が放送で紹介する取組を行ってみる。	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍ではありながらも、教員の努力により地域とのつながりを大切にしてできる限りの連携を図っている。児童の肯定的評価85%と比較すると差異がある点を分析する必要がある。・保護者評価の「学校は我が子の相談に丁寧に対応してくれる」は目標に達成していない。94%の保護者は肯定的評価をしてくださっているが、そうではない6%の保護者に視点を当てて取り組む必要がある。・教師評価の「児童の課題に対し迅速に対応し、教職員間で連携して取り組んだ」「仕事に意義とやりがいを感じ主体的に児童と関わったり教材研究に取り組んだりした」については肯定的評価が100%となった。課題に対してチームとして取り組んでいることや、週1回の連絡会で情報を共有していることの効果が出ている。また業務改善により、教職員の働き方改革が進んだ表れでもある。
---	---	---



【学習指導について】

- 1年生からICTを活用した効果的な学習が展開されている。昨年度参観した時よりもさらに活用されていると感じた。
- 今年度から高校入試が変わる。「自己表現」で大きく点数の差がつくことはない想定されるが、伝える、表現する力は今後必要になってくる。
- 高校入試の学力テストでは、本番に結果が出るように自己調整力をつけることが重要になってくる。

小学校でも宿題の提出の仕方を工夫しているということで、自分で期限を守り提出する習慣を是非継続してほしい。

【開かれた学校について】

- コロナ禍ではあるが、できることから行事を再開している。地域を知ることを通してふるさとを大切にすることを育ててほしい。
- あいさつする児童が少ないという地域の方の声から、あいさつの取組（あいさつシール）をした。あいさつは大変大切なことである。また取組を試みてほしい。
- 鼓笛は原の伝統として続くといいと思う。卒業生も引き継がれていくのを楽しみにしている。

結果と課題の分析・改善方法等

<p>【修正】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業のふり返りを書く際に「理由を書く」ことを習慣化する。 • 児童の発表に対して、「なぜそう思うのか。なぜそう考えたのか。」という切り返しの質問を多くする。 	<p>【修正】</p>	<p>【修正】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 保護者評価の「学校は我が子の相談に丁寧に応じてくれる」について肯定的ではない6%の保護者に視点を当てて取り組むためにも、アンケートの取り方に工夫をする。※formsにアドレスが明記されるようにするなど。
---	-------------	---

第3回(最終)学校運営協議会



結果と課題の分析・改善方法等

②	②	③
---	---	---

第3回(最終)関係者評価委員会を受けて最終報告

学校関係者評価を受けての次年度の方針・方策

		<p>• 協議会報告を受けて、各部会で、新たな改善点があれば、下にご記入ください。</p>
--	--	---